

## 「統合脳」5 領域 第 3 回総括班会議

日時:平成 16 年 12 月 23 日(木) 13:30~15:30

場所:砂防会館 2F 会議室

出席者: 丹治 順、木村 實、狩野方伸、三品昌美、貫名信行、山森哲雄、青木 清、高田昌彦、伊佐 正、泰羅雅登、小松英彦、塚田 稔、梶 正幸、小田洋一、鍋倉淳一(学術調査官)

1. 高田事務局長から 10 月 2 日に開催された「統合脳」シンポジウムに関する会計報告が行われた。
2. 支援班活動の進捗状況について
  - ① 研究リソース委員会(高田委員長)では、11 月 25 日午前に第 1 回委員会を招集し、活動方針について検討した。特に、リソース対象をどのように選定するかという点に関して十分な議論を行った結果、公募も考慮した形で、提案代表者によって提出された提案書を、委員会が審査し、優先順位と支援金額を内定したのち、総括班会議で承認を得るということを合意した。また、同日午後「脳活動計測新技術ユーザー検討会」を開催した。
  - ② データベース委員会(伊佐委員長)では、理化学研究所(代表 白井支朗氏)のニューロインフォーマティクスとの連携を進めており、具体的には、これまで理研で立ち上げてきたプラットフォームを利用して、統合脳関係のデータベースへのリンクや研究者情報データベースの構築を検討中である。また、「統合脳ホームページ」の運営に関して、班会議の日程やプログラムは公開、抄録は班員のみがアクセス可能とすることが承認された。
3. 平成17年度の夏、冬行事について(小松実行委員長)
  - ① 夏のワークショップ: 8 月 18 日午後から 19 日午前にサテライトシンポジウム 1(第 3 領域と第 4 領域が合同で担当)、19 日午後にワークショップ(第 1 領域が担当)、20 日に班会議、21 日にサテライトシンポジウム 2(第 2 領域と「脳と心のシンポジウム」が共催)を行うことになった。班会議については、第 1 領域が各専門領域に分散、第 2 領域と第 5 領域が単独、第 3 領域と第 4 領域が合同で行い、基本的には口頭発表を中心にして、一部ポスター発表も行うことになった。
  - ② 冬のシンポジウム:12 月 21 日午後にシンポジウム(第 1 領域が担当)を行い、22 日と 23 日の両日に班会議を行うことになった。班会議は夏と同様の形式で行うが、口頭発表とポスター発表の両方を並行して行うことになった。
4. その他
  - ① 丹治領域代表から、12 月 10 日に行われた佐々木脳領域委員会委員長との懇談会で、「計画

班員と公募班員との不公平感をできるだけ解消するために、業績評価を積極的に行うことが望ましい」との佐々木委員長からの意見が伝達された。

② 評価に関して、以下のことが確認された。(1)領域外評価は1, 3, 5年終了後に実施される脳領域委員会のヒアリングにより決定される。(2)領域内評価については、計画研究は評価委員によるヒアリングを中間で行い、専門委員会で採択された公募研究(ただし、単年度で採択される平成17年度分は除く)は領域ごとに中間評価を行う。

③ 第4(分子脳科学)領域の三品代表より、領域総括班会議の報告として「プロテオーム解析の支援」と「遺伝子改変動物の作製と機能解析の統合的検討」の2点に関して、第3(神経回路)領域、第5(病態脳)領域、及び支援班や研究者育成支援委員会と連携した形で進めたいとの提案があり、了承された。